



第501号 令和2年4月1日
発行所 京都市学校医会
京都市中京区間之町通竹屋町下ル
楠町601-1 こどもみらい館 2階
TEL (075) 256-0351
FAX (075) 241-3568
発行人 林 鐘 声

会長退任のご挨拶

会 長 林 鐘 声

平成26年4月に奥村正治会長の後を引き継ぎ就任して3期6年が経過し、1月の理事会で退任を表明しました。その直後から新型コロナウイルス感染症の拡大の波が押し寄せたため、4月18日に予定していた定期総会を中止と決め、代わって、総会での審議予定であった案件を紙面で皆様に諮るようにするとともに、学校再開に合わせて4月に予定されていた内科健康診断の実施を教育委員会と相談して5月以降にしたのに、更に延期するなど慌ただしい最後になりました。会員の皆様のお役に立てているかを自問しながらの6年でしたが、今、改めてそのことを嘯みしめているところです。

4月20日には、新会長の杉本英造先生のもと新執行部の活動が始まっています。異なる角度からの光を受けて今までと違うところも輝き、学校医会が多面体の活動体であることに皆様が気付かれるのはその遠い先ではないことでしょう。

学校医会の活動を振り返ると2つの要素があったと考えます。一つは、「学校給食と食物アレルギー」「学校でのエピペン使用」「運動器検診」や「80時間を超える教職員の時間外勤務の問題」などの文科省や厚労省からの通知に端を発した活動です。校医ニュースで繰り返し取り上げてきたので詳細はいらないでしょう。二つ目は「肥満とやせの指導マニュアル」の改訂や「結核高蔓延国からの途中転入者への結核検診の年度途中での実施」などのように状況の変化に合うように修正をしてきた活動です。とりわけ大きな改変と呼んでいいのは「感染性胃腸炎・食中毒の集団発生時の対応」です。従来は保健センターの職員が食中毒と判断した時に限って5人のみを抽出

して検便検査をするという窮屈で不十分なものでした。教育委員会が保健医療課に働きかけ、初発症状者全員を検便検査の対象者に変更しました。この対応に切り換えた効果はすぐに現れ、平成28年は学校でノロウイルス感染症が頻発していたにもかかわらず、遷延せずに速やかに終息しました。食中毒に限らず、感染症対策の第一歩は診断から始まるという医療の基本に沿った全国でも珍しい対応です。

最後は京都市と京都府の学校保健が交わった例です。小中学生の心電図検査を省略4誘導から標準12誘導に変更することを、京都府医師会学校医部会心臓検診委員会はかねてから要望してきました。平成29年に京都市が受け入れた途端に、1自治体を除き全ての自治体が次々とカードをひっくり返すように12誘導心電図を導入していったのは、予測はしていても壮観でした。また、私たちが作製した「運動器検診マニュアル」は京都府で広く使用して頂いているのは嬉しい事です。しかし、府下には府下の事情があるせいで、「脊柱検査は上半身脱衣で行う」という肝腎なことが必ずしも実行されていない現状を知ると、残念でもあり力及ばずでもありという感慨を抑えることができません。

会長として色々な経験をさせて頂き幸せでした。支えて頂いた理事の先生方を始め会員の皆様のお陰であり、京都市教育委員会の教育長からは適切な判断を戴いたこと、体健室の皆様とほどよい関係で仕事ができただことに感謝しています。今ほど「恩は回せ」と思う事はありません。そのことをお伝えして、退任の挨拶とします。

第50回全国学校保健・学校医大会 特別講演

「渋沢栄一を育てた環境と時代」

太秦小学校医 井本 雅美

開会式・表彰式、シンポジウムに引き続き行われた特別講演では、「栄一が携わった社会・公共事業と、人づくり」という副題がついた、渋沢栄一の生涯にわたっての伝記的なお話を拝聴しました。

演者の鹿島 高光 先生は、渋沢栄一記念財団・竜門社深谷支部幹事、深谷上杉・郷土史研究会という肩書をお持ちで、昭和4年妻沼町（現在の埼玉県熊谷市）のお生まれ、小、中学校や教育委員会でご勤務された方です。

渋沢栄一といえば、2024年を目処に発行される新一万円札の肖像画に選ばれたことで注目を集めている人物です。幕末に生まれ「日本資本主義の父」と称されるとのことですが、渋沢栄一についても、また資本主義経済についてもあまり知識の持ち合わせがない私には演者の先生の語りと講演スライドだけではついていけず、スマホからの情報を補足させながらお話を聴きました。

渋沢栄一（1840-1931）は、現在の埼玉県深谷市血洗島の農家に生まれ、家業の藍玉製造販売や養蚕などを手伝える一方、幼い頃から「論語」などを学びます。その後郷里を離れ一橋家に仕え、27歳の時にはパリの万国博覧会など欧州諸国の実情を見聞し、

明治維新後は明治政府に招かれ大蔵省の一員として新しい国づくりに深く関わりました。1873年に大蔵省を退官後は実業界に転出し、銀行、保険会社などの金融や、ガス、鉄道などのインフラを中心に約500もの企業設立に関わり、また約600もの教育機関、日本赤十字社設立などの社会事業、並びに民間外交を推進しました。

渋沢栄一が生涯を通じて大切にしたのは、「立志（夢を持ち志高く生きること）と忠恕（まごころ・思いやり）」。

これは深谷市の教育の基本理念になっているようです。

社会のためになるまごころと思いやりのある経済活動、つまり企業は利益（私益）だけではなく公益も考えないといけない、「道徳経済合一説」は、これからも日本で、そして世界でも受け継がれていくことを期待しますが、世界的にそのバランスをとることが困難になっている現実があるのを感じる昨今です。

2021年には、渋沢栄一を主人公としたNHK大河ドラマ『青天を衝け』が放送される予定のようですが、どのような描かれ方になるのか楽しみです。

COVID-19流行と学校 — 市松模様の座席配置の試みから —

葵小学校 校医 東道 伸二郎
養護教諭 中川 直美

新学期の学校では進級に伴う教室の変更、クラス替え、先生の交代、新しい教材との出会いなど、これまでをリセットして出発する良い機会です。子どもたちの隠れた関心事の一つは「座席決め」で、「ドキドキの席替えシーズン到来」のおまじないの相談さえあるそうです。児童は座席について様々な思いがあり、子どもたちがより円滑な学校生活を送るには、発達段階や人間関係に配慮した座席配置が必要となっています。小学校では視力の悪い児童は前方を好む傾向があり、学年が上がるにつれ先生との距離を置いた後方が好まれるようです

(<http://repository.hyogo-u.ac.jp/dspace/bitstream/10132/10831/1/YU12501005.pdf>)。

LINEの調査によると中高生になると「好きな席」は、眺めの良い「窓際」エリアで、一位は窓際が一番後ろの席で青春物のドラマやアニメの主人公が座る位置です。逆に座りたくない座席の一番は先生の目の前の席で、2番、3番は出入り口に近い最前列と最後列が続きます (<http://survey-blog.line.me/ja/archives/30803963.html>)。

感染症に配慮した座席を考えると、ノロウイルス胃腸炎では、発症した隣の子どもの次に出入り口に一番近い席の子どものにも伝染すると言われ、出入り口に近い場所は児童には要注意の席といった印象です。飛沫で伝染するインフルエンザはすぐ左右前後に座る子どもにも伝染し、クラスターを形成するため学級

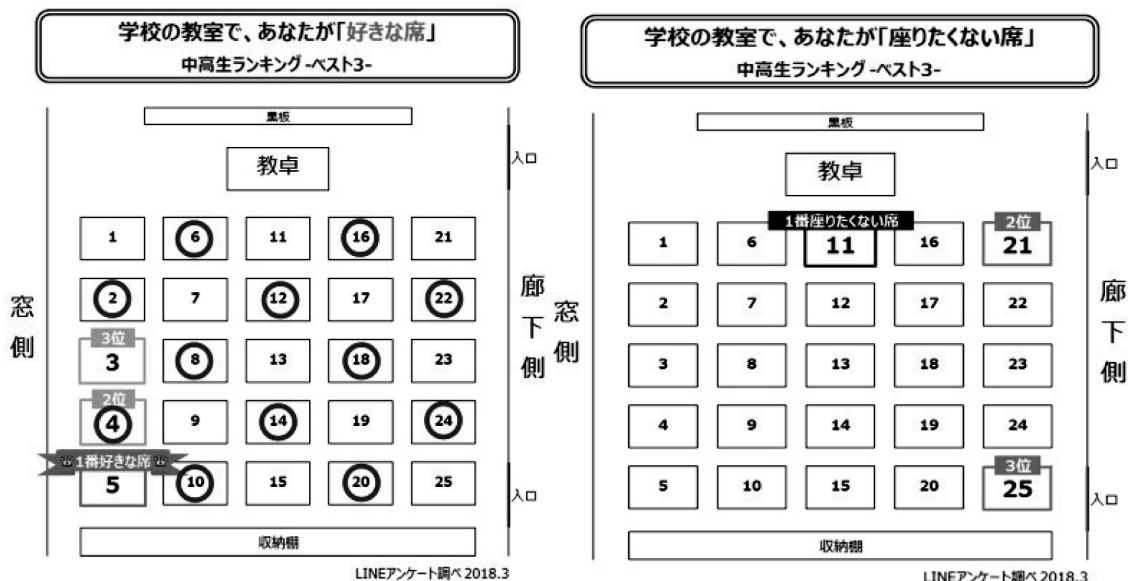
閉鎖を行うことがしばしばです。

私の関係する学校では、今年のインフルエンザが多発したクラスで土日休みを含む3日間の学級閉鎖ののちに、前後左右を空けて市松模様に座席をとるようして授業を行ったところ学校全体で感染は激減し早急に流行が収まっております。複雑な問題を

持つ子どもたち同士の授業中のいざごは予想に反して見られなくなったようです。

新型コロナウイルスによる休校明けのクラスで前後の距離を少し取り、図1○のような座席配置で授業を再開することも良いかもしれません。

図 1



○ 感染症流行時の座席

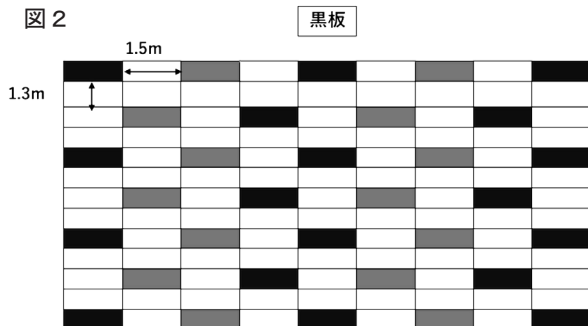
以上のことがノートルダム女子大学の「せんせいのたまごブログ」2020年3月23日にアップされました。葵小学校ではインフルエンザや感染症と思われる発熱が多発する場合、すぐに市松模様 (checked pattern) にクラスの座席を配置します (図2)。

小学校の机は奥行40cm、幅60cmで、机の間隔は黒板に向かって縦軸方向に1.3m、横方向に1.5m離れて机を配置するので、子どもと子どもは縦方向に

1.7m、横方向に2.1m離れていることとなります。30人以下のクラスではいつでも市松模様に座席を変更できます。30名を超えるクラスでは席をバラバラに配置してできるだけ子ども同士の間隔をとるようにしています。学校の教室のような、密接に接触している人々の間では6フィート (1.83m) 以内の感染者の咳や喘鳴で生じる飛沫が感染の原因ですが、子どものものは大人の飛沫より飛ぶ距離も短いことが想定されます。インフルエンザ流行時の経験から、小学校では前後1.7m間隔の市松模様の座席により子どもたちを飛沫から守れることは確かなようです。子どもたちには感染に対する安心感があり、発達に困りごとのある子どもには接する子どもと程よい距離がとれるようで、刺激が少ないメリットも大きいようです。

私たちの試みた市松模様の座席配置はCOVID-19にも有用と思われ、新学期の学校での感染拡大をある程度押さえることが出来るものと考えています。

図 2



全 理 事 会

令和2年4月2日

於：こどもみらい館第二研修室

出席者 林会長，井本・杉本副会長，山内専務理事，川勝・西村各常任理事・豊田・尾崎・小西・関・橋平・周藤・公手・辻幸子各理事，奥村副議長，東道・長村監事

・会長挨拶

<報告事項>

1. 事業報告
2. 会計報告
3. 各支部活動状況
上京支部：支部会なし
左京支部：3/23予定が中止 小学校の座席表
山科支部：支部会まだ
中京西部支部：支部会なし
下京支部：支部会なし
東山支部：3/1支部会 コロナの対応について等
西京支部：支部会なし
4. 定期健康診断の延期 3/25
4月は行わない 年度中に終われば可
5. 学校保健に関する新型コロナウイルス感染症対策について 3/26 (府医)
6. その他 物故会員の把握が難しいので，支部からの通知依頼

<協議事項>

1. 令和2年度 予算について
2. 会長の交代について
林会長4月で退任 次期会長は杉本副会長
3. 令和2年度 活動方針について
定期総会が無いため，上記は校医ニュース5月号で表明 会員には郵送する
4. 定期健康診断時の新型コロナ感染予防の手順
時期は5月以降
健診時の体制 子どもはマスク着用の事，1人診る度に手洗いするアルコールの準備等を要請
保健調査票をチェックして診る必要のある子だけに
学校医のSARS-Co-2の抗体検査をしたい

第 11 回 常 任 理 事 会

令和2年4月4日 於：事務局

出席者 林会長，井本・杉本副会長，山内専務理事，大久保・安野・川勝・西村・中嶋各常任理事，嶋元眼科学校医会理事，鈴木耳鼻咽喉科専門医会理事，奥村議長，東道・長村監事

・会長挨拶

<報告事項>

1. 精神衛生研究会 3/12
2. 京都市学校医会 新任校医研修会 3/19
於：こどもみらい館第一研修室
参加者10名 (うち耳鼻科3名)
3. 色覚相談事業 3月分は延期 9名待機中
4. 全理事会 4/2 於：こどもみらい館第二研修室
5. その他

<協議事項>

1. 令和2年度京都市学校保健会役員選出について
会長杉本 眼科，耳鼻科変更なし
2. エピペンの管理・提供について
陸上記録会時に蜂に刺された子がいた
エピペンがあった方が良いが，管理が難しい
3. 定期健康診断時の新型コロナ感染予防の手順
子どもが全員マスク着用できるか？
1人診る度の手洗いは時間がかかり過ぎ
アルコールはあるか？クラスごとにするか
4. 新型コロナ感染症の診断キットの利用について
クラボウのキット10検体に対し，希釈液が1つしかついていない！
情報提供のみになるか，何か考えるか
5. その他
新型コロナ感染者発生時の学級閉鎖：
1人出れば学級閉鎖，2人出れば学校閉鎖
期間は2週間か？
特定健診が小学校でなされることについて：
小学校は使わないと要望したい
健診できるかどうかは2か月前に決定している
総会中止の旨は校医ニュースで知らせる
事業報告等は郵送する
総会の冊子は作る 10月の臨時総会で参加者に配布

<関連学会・各種協議>

1. 学校保健に関する新型コロナウイルス感染症対策について その② 4/7 (府医) 林
2. 精神衛生研究会 4/9 (中止決定)
3. 第1回常任理事会 5/9 14:00~
4. その他